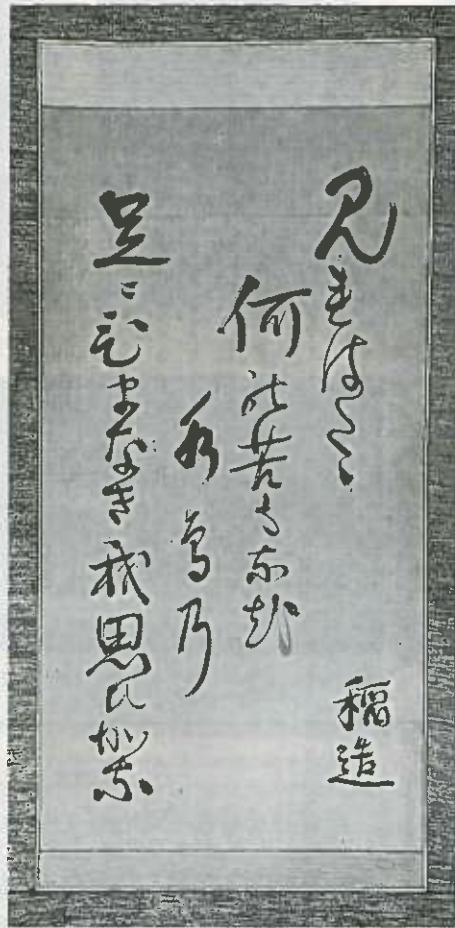


十和田市立 新渡戸記念館だより



新渡戸稲造博士
(昭和27年10月16日
発行の文化切手)



見えはただ
何の苦もなき
水鳥の
足にひまなき 我思ひかな
稲造

新規収集資料の紹介 —新渡戸稲造博士直筆の書—

南部藩の兵法学者だった稲造博士の曾祖父・維民は、花巻城を縮小するという藩の方針に反対した首謀者とされ、文政3年(1820)川内(下北郡川内町)へ流されました。稲造の祖父・傳、父・十次郎もこの地で苦勞しましたが、傳の日記『太素日誌』には地元の人々が暖かくむかえてくれた事に感謝の気持ちが書かれています。そんな関係から稲造博士は昭和3年(1928)この地を訪れ、十数点の書を川内の人々に残しています。この掛け軸もその時に書かれたものです。



「新渡戸記念館新館構想」市民から多くの反響

前号で太素顕彰会評議員会に出された「新渡戸記念館新館構想」を市民の皆様にお知らせ致しましたところ、多くの反響をよびました。

市議会でも「整備すべき時期」との認識明確に

構想の発表と前後して、市議会においても「記念館は建設から30年以上になるが改築の考えはないか」との質問があり「整備の時期が来ている」との見解が示されました。その他に地元新聞紙面でも活発な議論がなされるなど新館構想への関心の高さとともに、市民の間に「整備が必要」との認識が強くなる事が、あらためて浮き彫りになりました。

市民とともに考えたい記念館の未来像

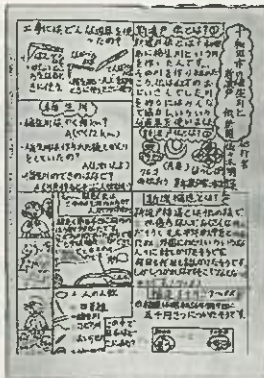
市議会の論議の中で、同時に「記念館が十和田市の文化教育振興において重要な役割を担っていくべき」との認識も明確に示されました。今後も再開発後の新渡戸記念館が市民のニーズにあった「文化の広場」となるような構想を市民とともに練っていくべきだと考えています。



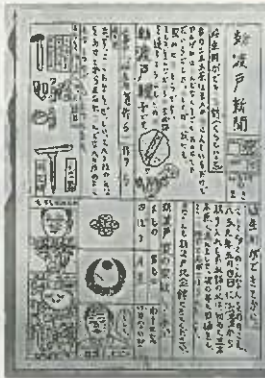
開館以来 32 年をむかえた記念館 2 階「新渡戸稲造コーナー」

小学生レポーターの楽しい“しんぶん”

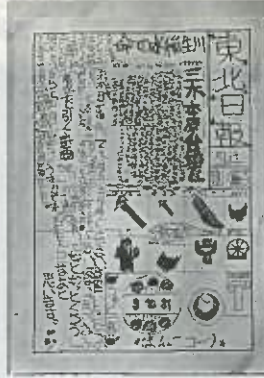
十和田市立洞内小学校 四年生



十和田市立伝法寺小学校 四年生



五戸町立切谷内小学校 四年生



八戸市立新井田小学校 四年生



新渡戸記念館を見学した小学生のお友達から、いつも自作の社会科新聞や感想文を送ってもらっています。今年度から新聞は掲示板にはり、感想文はファイルして館内で見られるようになりました。

◎ 社会科新聞や感想文を頂いた場合は、質問への回答間違いの訂正などを含めて返事を送っています。



社会科新聞は館内に展示（展示するのは今年度頂いたもののみです）

当館から31点の資料を貸出協力

花巻新渡戸記念館企画展

「新渡戸維民・傳・十次郎展」無事終了

今年9月5日～10月19日まで開催された花巻新渡戸記念館企画展「新渡戸維民・傳・十次郎展」が終わりました。9月25日には当館の新渡戸館長が花巻市生涯学園都市会館で講演をおこない、新渡戸三代の足跡などを語りました。10月22日には、貸し出していた31点の資料全ての返却作業も無事に終了しました。今後も「新渡戸記念館」としての相互の協力関係を深めていきたいと思ひます。



9月26日の岩手日日新聞より



めずらしい黒船の絵図も公開されました



新渡戸氏ゆかりの地をたずねて 3

『新渡戸氏系譜』に名の残る“安昌寺”“陽明寺”を探して

岩手県内 新渡戸氏の足跡を調査

新渡戸家に代々伝わる『新渡戸氏系譜』には、先祖の葬られた寺の名前がいくつか記されていますが、これは



15世紀始め～16世紀末 新渡戸氏の動き (新渡戸氏の歴史詳細は“だより5号”で紹介)

新渡戸氏の足跡をたどる重要な手がかりとなります。7月31日～8月1日までの新渡戸氏ゆかりの地調査では寛正6年(1465)28代新渡戸頼胤が葬られた「安昌寺」と、慶長3年(1598)32代胤重が葬られた「陽明寺」をさがして岩手県内を調査しました。

レポート
1

永明寺をたずねて

「永明寺」は『新渡戸氏系譜』に
名前が残る「陽明寺」なのか？

『系譜』に32代胤重が慶長3年(1598)「和賀郡二子村陽明寺」に葬られたとありますが、現在「陽明寺」という寺は旧二子村内にありません。しかし、名前が一文字違いで読み方も同じ「永明寺」(ようめいじ)という寺があることがわかりました。その寺は胤重が食客となった和賀氏の菩提寺で、かつては和賀氏の居城・二子城内にあった事などから「陽明寺」=「永明寺」ではないかと考え、今回調査に伺いました。

江戸時代に新渡戸維民(40代)が書いた新渡戸氏系譜注釈書『旧伝録』に維民が寛政・享和年間(=1789~1803年)に「陽明寺」を調査した時の事が記されており、それには「陽明寺を尋ね

たが古い墓石は苔むして字がまったく見えな
いし、過去帳は焼失して
いた」とあります。
今回の訪問で住職・上



野正孝師にお話を伺っ
たところ、永明寺は建暦2年(1212)の開山で、今から約
480年前現在の場所に移ってから数度にわたり火災に遭っ
ているので過去帳等が無いとの事でした。これは維民の



永明寺(北上市二子)

『旧伝録』の記述と
合致しており、和賀
氏との関係からも永
明寺が当時の陽明寺
であると考えて良い
のではと感じていま
す。

レポート
2

安昌寺・龍泉寺をたずねて

大東町の新渡戸姓や地名・新渡戸は
新渡戸氏の足跡か？

昨年、宮城県本吉郡での調査で28代頼胤が寛正6年(1465)葬られた「元良郡高原の安昌寺」を探しましたが手掛かりは見付かりませんでした。そこに気仙沼の郷土史家の方から岩手県大東町に「安昌寺」という寺があり、そこから7kmほどのところには「新渡戸」(にわた)という地名がある事、またその地区の龍泉寺というお寺に新渡戸(にとべ)さんという住職がいらっしゃる事等の情報をいただき、新渡戸氏と関連がないか調査してきました。

★安昌寺

安昌寺の住職・中村興道師に伺った所、開山は文亀2年(1502)、御位牌堂の開創も明応3年(1494)と頼胤が葬られた寛正6年(1465)にはまだ無かったと言う事で、『系



安昌寺(大東町)

譜』の「安昌寺」である可能性は薄いのではとの事でした。また、古い過去帳などは明治12年(1879)の火災で焼失しており、それ以上詳しく調べる事は出来ませんでした。

★龍泉寺

龍泉寺に伺った所、新渡戸住職は残念ながら今年3月に亡くなったとの事で、娘さんがお話をしてくださいました。『系譜』には頼胤の弟貴暁が安昌寺の住職となったとある事からも、龍泉寺住職の新渡戸姓には何らかの関係があるのではと思ひ、その事も伺ってみました。この地域の新渡戸(にとべ)姓は明治4年(1871)の戸籍法施行にあたり新渡戸(にわた)の地名から名づけたもので、新渡戸氏との関係はないとの事でした。また地名「新



龍泉寺(大東町)

渡戸(にわた)」は、古くからあった「渡戸」(わたど)という集落に対し「新・渡戸」と称したのではないかと思います。

トピックス
新渡戸氏ゆがりの立花毘沙門堂(北上市)

この毘沙門堂は平安時代からある寺で、祀られている毘沙門天立像、二天王立像はともにその時代の作です。これらの像は国指定重要文化財となっています。江戸時代、この地を知行した新渡戸氏(盛岡本家)の手厚い庇護のもと発展しており、毘沙門堂の周囲には月型の土塁が築かれ、毘沙門堂を星として新渡戸家の家紋「月星」をかたどった配置をとっているといわれています。



毘沙門堂



関連情報

活動報告

● RAB青森放送テレビ「知ればしるほど!! あおもり県」で三本木原開拓を紹介

11月9日RAB青森放送テレビの30分番組「知ればしるほど!! あおもり県」で三本木原開拓の歴史が詳しく紹介されました。伊奈かつべい氏、内海桂子師匠が毎回楽しいトークで青森県の知られざる一面を紹介する人気番組です。番組には館長が出演し、新渡戸傳の指導者像等を語りました。楽しい中にも内容のある番組で大好評でした。

● 10月1日から12月28日までの来館小学校

<八戸市> 函南小学校・高館小学校・町畑小学校・白銀南小学校・鮫小学校・桔梗野小学校 <青森市> 横内小学校 <十和田市> 深持小学校・洞内小学校・南小学校・西小学校・伝法寺小学校・三本木小学校 <三沢市> 三川目小学校 <上北町> 第一小学校 <六戸町> 大曲小学校 <五戸町> 切谷内小学校 <南部町> 平良崎小学校・向小学校・小湊小学校 <南郷村> 島守小学校

● 演劇集団・九月とアウラー／音楽劇「INAZO 太平洋を渡った男」へ当館協力

岩手県盛岡市の演劇集団・九月とアウラーが第46作目として新渡戸稲造博士の半生を描いた音楽劇「INAZO 太平洋を渡った男」を岩手県(10/19 矢巾町・田園ホール 12/7 盛岡市・岩手県公会堂) 香川県(11/2 高松市・第12回国民文化祭かがわ'97)で上演しました。これに当館は花巻新渡戸記念館とともに協力し、公演当日来観者に記念館のパンフレットを配布しました。十和田市での公演も待たれます。

● 外国人観光客割引優待カード「あおもりウェルカムカード」は当館でも使用可能に

本県を訪れた外国人観光客が、観光宿泊施設などで料金割引の特典を受けられる「あおもりウェルカムカード」が今年10月発行されました。十和田市内の観光施設では、当館がこのカードの使用可能施設として登録されています。



ウェルカムカード

● 館長各所で講演会

館長を講師とした三本木原開拓や新渡戸稲造博士に関する講演会が各所で開催されました。

10/17 十和田市南大学講座・10/30 第66回都市職員厚生連絡協議会・11/11 平成9年県民カレッジ(下北文化会館)・11/15 十和田市内ボランティアガイドの会 11/26 平成9年県民カレッジ(三沢市公会堂)・12/5 上三地区教頭会・12/11 五戸町教育委員会主催講演会

● 第45回全国博物館大会に館長出席

今年11月5日～8日まで広島で開催された第45回全国博物館大会に出席しました。大会では博物館が新たな事業展開にむけて諸機能充実をはかるための決議が採択されました。



● 第5回東北学芸員会議に出席

12月6日山形県立博物館で開催された第5回東北学芸員会議では学校教育との連携、資料管理におけるコンピューターの利用について討議が行われました。

● 十和田市民文化祭－写真展－に新渡戸記念館イメージ写真パネル出展

11月13日から3日間開催された「十和田市民文化祭写真展」に、新渡戸記念館のPR用パネル2枚を出展しました。新渡戸稲造と三本木原開拓のテーマで、各一枚作成し今回特別出品として展示してもらいました。このパネルは今後も記念館PR用として活用しようと考えています。



● 太素塚元朝参り

太素顕彰会では今年も例年通り、太素塚への元朝参りの方々にお神酒とおいしい甘酒の無料サービスを行います。皆様のおいでお待ちしております。

<編集後記>

新館構想を発表致しましたところ、暖かいご支援を頂き感謝しています。有意義なご意見をくみ取り、一日も早い実現を期待しています。どうぞ皆様良いお年をお迎えくださるよう祈念致しております。

発行 太素顕彰会
十和田市立新渡戸記念館
〒034 青森県十和田市東三番町24-1
TEL (FAX) 0176-23-4430
印刷 有限会社 岩間印刷所